

令和2年2月3日

松阪市議会
議長 大平 勇 様

日本共産党 松阪市議団
報告者 殿村 峰代

研 修 報 告 書

標記の件について、下記の通り報告いたします。

記

1. 日 程 令和2年1月21日（火）10:00~16:00
2. 研修会 地方議員セミナー
地方自治体は子供の問題に何ができるか？ i n 京都
「子ども家庭を取り巻く現代的な課題について」
「児童虐待・子どもの貧困
根本解決に向けて地方自治体にできること」
3. 会 場 京都テルサ東館2階「視聴覚教室」
4. 報告者 殿村峰代（日本共産党）
5. 講 師 辻 由起子（大阪府子ども家庭サポーター・社会福祉士・保育士）
6. 目 的 現在の日本における子供・家庭を取り巻く課題について知り、
地方自治体において、その根本的な解決方法を学ぶ。
7. 内容・所感
 - 1) 液体ミルクの紹介
飲んでいる議員はどのくらいか
温める必要なし。災害時や高齢者も飲用可。 1本215円。
 - 2) 講師自己紹介を通してこの課題に取り組む経緯
大阪府茨城市出身。
団塊ジュニア世代で素直でいい子でまじめ「嫌だ」と言えない。
茨木高校卒業後、付き合った男性と18歳で妊娠、結婚。教育者の父に勘当された。
しかし、薬物依存の夫のDVはすぐ始まった。19歳出産。
自分や娘に対する暴力で悩む原因を探る。暴力の環境から抜けるために離婚。
23歳でシングルマザーとなる。
母親の支援を受けながら、すぐ佛教大学通信教育課程文学部教育学科入学。

幼児教育専攻し、卒業。卒論は「母親の抱える育児不安について」

資格取得後、外資系正社員となる。

しかし、子どもの幸せ学費のために働いたが疲労困憊。

日本の社会システムの不具合で、子ども、女性を守れるものがなくエラーだらけ。

法律が頓珍漢なものしかない。そこで仕事をやめ、

33歳で佛教大学通信教育課程社会学部に入学。社会福祉学科卒業。

3) 学んだ結果、導き出された事。

「恋愛も子育ても本能まかせではうまくできない。」

親は親子のかかわりの中で親に育ててもらえる。

母性を育てないと親になり切れない。

生きている人は全て二人の親のおかげで生まれた。

正しい指導方法でまともになる。喜びや感謝の環境で人間は成長する。

我慢合戦ではほとんど成長しない。

お母さんはお母さんであることで「100点スタート」「子は宝」。

産み育てる「母親」は、「国宝」である。

4) NHKの取材・映像などを通して中学生に教育活動。

①『ママたちが非常事態!!ニッポンの「母」になにが?とまらない不安と孤独』(NHK) 一人で子育てするママの不安。

これは、出産後エストロゲンの減少がある。人類の種を守るための生理現象。本能。

この不安を解消するため原始より親は群れで生きる。

赤ちゃんは本能で生き残るため、笑うなどの原始反応がある。

②「乳幼児ふれあい体験」思春期の子に自分の必要性を感じてもらおう。

中学生の心の育成。広域で連携。泣かさない子育てはしつけができない。

性教育は2014年無くなった。臭いものにはふたをする。

これでは子供に教育できない。

5) 2019年6月19日児童虐待防止法改正ポイント

厚労省の啓発のポスターは非常に暗く響かない。

やっと大阪府と同じステージになった。

まったく積みあがっていない。実績がない。

職員はやることが多くてついてゆけない。

公務員の専門性を高めるには時間がかかる。

そもそも専門職で採用が必要。ケースは収束に数年かかる。

児童福祉士の数を増やすことは大切だが、質を向上しないと意味がない。

命を生み出す男女の関係がどうかで、子どもが虐待にかかわるかどうか決まる。

プログラムに参加しない親が問題。夫婦一緒に学ばないと虐待は無くならない。

死亡までに至るのはネグレクト・躰・望まない妊娠・泣き止まない
という言い訳の順。

189番。夜間悪化するケース。救急車ないのに受ける窓口だけ増やした現状。
一時保護は原則二か月。大阪五ヶ所200名定員。まったく違う地所で保護。

「マイツリー」2週間に一回半年間参加。森田ユリ著。

＝子育てを学べる機会・子育てをサポートしあえる環境の構築＝

虐待をやめさせたきっかけ。村松葉子さんNHK取材。

児童相談所(全国208か所)一人100件ほど担当し相談できないところである。
ただ話を聞いてくれるところが必要。

「しんどかったね」と一人の母親を孤独に追い込ませない場所を作る。

その後、保育士を養成。しかし「死にたい」という学生。元気にする授業が必要。

「児童相談所の業務内容の問題」

子供の保護と親の相談というダブルでは無理。

親は敵に相談できない。福岡市方式は2009年6人の子供が虐待で死亡。

児童相談員の法律家のサポート。

緊急性が低い場合はNPOが対応。

親になることを教えていないのになくなるはずがない虐待。

山谷恵理子議員の中で行き過ぎた性教育。

スマホネイティブの子たちはみんな起きている。

予期しない妊娠。計画しない出産。

0歳0か月で虐待死亡。未受信出産の推移。

経済的貧困。コンドームの費用700円でない。

知識の欠如。10代の人工妊娠中絶1843件(東京都内の病院での墮胎)

乳児院(法的には2歳ころまで)・児童養護施設

社会的養護にならない親を育てることが大切。

「人を救うのは人でしかない」

ママさんがまず連携。託児をつけて愚痴を吐き出す。

ママがママをサポートする。ママが伝えられる人。ボランティア。

1970年代の母子手帳。これには「よい赤ちゃんを産む条件」などという呪いがかけられている。生き残りをかけて異なる遺伝子を生み出すという遺伝子の戦略を否定する。障害のある児は一定率生まれることになっている

また、子育てにおいてもスポット博士(米)の添い寝しない学説まだある。

本人は間違いであったことをきちんと説いているのに、世間には広がっていない。

便利な世の中になったけれど、人間関係が希薄になった。

6) 解決方法

地域にみんなが集まる、ここなら何でも言える風通しのいい場所で、
お互いの市町村がスープの冷める距離（程よい距離感）で、話・相談ができる環境。

まずは生活土台。暮らし、衣食住を充足させる環境整備が大切。

「つながり格差」が学力格差を生む。

NHKビデオ：「たすけてが届くまで」

20歳の母親と出会い系サイトで知り合った非正規雇用の父親。給料は不安定。

貧するは鈍する。親どおしの喧嘩は、面前DVで心理的虐待である。

現在の法律では子どもは守れるが、親・夫婦は守れない。

仲裁する第三者、仲人がいない。裁判所となるからややこしい。

根っこの部分が解決していないから解決しない。

適切な方法を学んでいないから適切な子育てはできない。

現代は手紙等郵送サービスが使えない子どもが多い。SNSなど通信機能はできるが。

相談員は寄り添うだけで解決しない。必要は解決。

ハイスペックな家庭でも問題はある。

両親は共働き。一緒に遊んでもらう子ども食堂は大切。世話を焼きあえる。

地域で育てる。いろんな大人のモデルに会える。そんな場所が必要。

こんな大人になろうと思うという人に会えることが生きがいになる。

いろんな人に会って母親が相談解決できる場所も大切。

夜泣きをお母さん一人に対応させたら子を殺してしまうような精神状態になる。

虐待は個人の資質ではない。虐待の起こる環境。双方の求めているケア。

支える周りのサポート力の低さ。子育ての不安を相談できない。

オレンジリボンは敵と思う親。避難・注意される対象にされてしまうから。

虐待から子を守ろうとしたら、親を守ることが大切。

子どもを愛して守っていくことが必要。絶滅危惧種の子供。

父親の育休。今の社会情勢では中小企業は取れない。

「子ども家庭愛護」の気持ちが大切。

しかし現実には「自分の自治体に相談できない」

児童相談所に相談できる？

追いつめられる児童相談所（NHK）

所長：地方公務員（専門職ではない）

ケース会議（遠くのエア会議） できる職員にケースは集まる。

守らなくていけないケース・命を守るために早急な判断が必要なケースに
対応しきれない。

残さなくてはいけない価値観や時代が変わっても変わらない子育ての方法
昔子育ては産婆さんの介入。日本はもともと親の世話は姑。

ネウボラ移動のある職員では無理。スペシャリストが必要。最低 10 年。

消防のようにスペシャリストが必要。

「みんなの実家」が必要。親も子も。

まず寝る。子どもと食事。いい塩梅適当にできないハイスペックママ。

デジタルネイティブ世代。阪神淡路大震災の世の 25 歳。

スマホネイティブ世代。雑談からしか本音を言っていない。

二次元の中で繋がって、世界が広がっている世代。

動画アプリ。ティックトック。ミックスチャンネル。仮想通貨。いいねの数。

性的虐待につながる。子供たちはすぐ次の親になる。

妊娠 sos. 子供たちに届かないシステムでは相談来ない。

Line の相談窓口を作る。細かい相談は電話・面談で行う。

「特定妊婦」ワンストップで手続きできない行政窓口。

子どもは本当に必要なことは相談しない。相談ではだめ。雑談が必要。

(解決方法の参考事例)

1. 「エプロン先生」：食事と掃除の時間に地域の人が入る小学校。

茨木市立玉櫛小学校。4 月の 1 か月間のボランティア。先生の給食費だけの予算。

はじめの一か月が必要。トラブルゼロで新入生は安心して話の出来る大人がいる)

ノートの取り方、鉛筆の持ち方。休み時間の過ごし方。学力はアウトプット。

国語は話すことで力がつく。しゃべれないことにも言葉がつく。

勉強の前に暮らしの土台、食べること。見て学ぶことをしないので知らない世代。

先生も同様だから教えられない。

2. 「子ども食堂」

縦割りや年齢を超えた地域の事業所。

報告仕様書がバラバラ。最低限のルールのみ。で自由に事業所が特色を出す。

カツアゲアイコン。何が欲しいか聞く。

市役所が一括預かりの食品をそれぞれの食堂が貰う。

行政は主体の食堂の支援をバラバラにしたいことをする。

日にち。使用人数。献立のみ。の報告書。

予算は場所代。食品衛生責任者を取りに行く費用を出す。などのみ。

7) まとめ

行政が行うべきことは、場所の確保と広報の支援。

行政の縦割り事情を市民に押し付けないで、庁内協議は庁内で終わらせる。

よい活動を継続させるため参加費 1000 円以内は実費として支払わせる。

8) 所感

子供の問題だけでなく社会全体の問題であるため、まずは子を通して親を守る

仕組みを作ることが必要だが、見守りながら手を出しすぎない方法が肝要である

という学びができた。もっと現場の声を聴く必要があると感じた。